

(別紙1)

【教育研究論文作成上の視点】

本事業では、「学校の実態を踏まえ明日の教育を考える」という立場から、教育に関する実践研究論文を求めます。論文には、①学校の現状や実態を踏まえることと、②これからの教育を展望した新しい実践の提案性が大切です。単に実践の事実を整理したもの、また多様な取組を網羅的・総花的に収めたものは、「記録」という第一次資料としての価値はあっても「実践研究」にはなりません。学校部門・個人部門とも「実践研究」には、研究主題に即して研究対象を絞った仮説を設定し、子どもや教職員の変容の事実から仮説を検証し、その具体的な実践の成果と課題とを示す「論述」が必要です。「どのような仮説のもとに、どのような具体的な実践に取り組み、どのような成果を得たか」を明示することで、その研究は他校でも活用できる汎用性をもち、本県教育の振興に寄与する有益な研究として評価されます。

以下に、教育研究論文作成上の視点を整理しましたので、ご参照ください。

① それぞれの学校の現状と、国や県などの教育の方向性等を踏まえたテーマ設定
なぜ、今そのテーマで実践研究に取り組むのかという、テーマ設定の理由が明確であり、そのテーマ設定の理由が学校の現状・実態分析を踏まえて述べられていることが必要である。そして、その現状・実態に県下のどの学校にも共通する普遍性があることが望ましい。また、国や県が提起している教育の方向性と重なっていることも重要な視点となる。
② 創造的で挑戦的な教育実践
設定したテーマについて、最新の理論研究の成果に学びながら、新しい実践方略で取り組んだり、これまで実践されてきたものを改善して取り組んだりしたものであることが求められる。先行する実践に学びつつ、その新規性に説得力があり、提案性と汎用性を備えた創造的で挑戦的な教育実践であることが重要である。是非、新しいチャレンジを！
③ 先行実践・研究を踏まえた仮説の設定
目指す実践の成果を導くためにどのように実践すればよいのかを「仮説」として設定する。質の高い仮説とするためには、同じ課題意識を持って取り組んでいる全国の学校・教師の実践、研究者による理論研究の成果に学んだ上で、自分の学校や子どもの実態に合わせた工夫を示すことが重要である。
④ 実践の成果の見える化
仮説は子どもや教職員の変容の事実で検証していくため、その事実を客観的に記録・収集する必要がある。いつ、どのように、どの事実を記録・収集するかについて見通しを持ち、綿密な計画を立てておくこと。子どもや教職員の変容の事実を数値の変化として定量的に示すこと、また具体的な活動やエピソード、インタビュー記録や本人の作文等の定性的な資料の分析や解釈することも重要である。
⑤ 研究論文としての様式
研究論文としての体裁を整える。研究目的・対象－仮説－実践－事実に基づく仮説の検証といった論理的な文章構成とする。他者の文章や既発表の文章を注釈なしに引用するのはルール違反。感想文ではないので、「…と思います」「…ではないだろうか」等の曖昧で主観的な書き方はせず、事実によって裏付けし、確かなことを客観的な体裁で述べる。 なお、論文題目も研究目的・仮説を踏まえて焦点化させることが重要であって、学校の校内研究のテーマをそのまま論文題目にはいけない。論文で焦点を当てたところがわかるように、また研究のオリジナリティ・新規性＝魅力が伝わるように工夫する。

(審査委員会委員長 高旗浩志)